

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ榎原醍醐 (なでしこ)		
所在地	榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2990500049&amp;SCD=320">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2990500049&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年8月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どうしても座って過ごす事が多い中で 少しでも意欲的に体を動かして頂く為に朝 夕の体操や移動パンやさん、ボランティアの方々の受け入れや、裏の畑の作業などに参加して頂ける様 力を入れている。不穩の軽減に結びついている。

特別な事はないけれど日々の日常生活でのお手伝いを毎日して頂くように声掛けをさせて頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、田んぼや畑など自然が多く残り季節を肌で感じる事が出来る環境のいい場所にありません。玄関には折り紙で作った大きなハマワリが迎えてくれ、季節に応じたきり絵など皆で協力して作った作品が掲示されています。職員は理念の基、静かな環境の中でのんびりと暮していけるよう取り組んでいます。管理者は実際にフロアで職員と一緒にケアする中で状況を把握し、個々の利用者の自由や自立した暮らしを守っていくために職員間で話し合うことを大切にしています。また、カンファレンスにできるだけ家族に参加してもらい、直接意向を聞きながら介護計画を作成しています。更に市の担当者とは、運営推進会議に出席してもらうだけでなく、行事への参加等がありなんでも話し合える関係を構築し運営されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	除じよに 協力して下さる方も増えてある地域活動にも参加してしている。	自然が多く残る環境の中で静かに心穏やかに暮らしていけるようにとの思いを込めたホーム独自の理念があります。ケアに追われることなくゆっくりと話が出来ているか、ケース会議で振り返り話し合っています。	利用者や家族、地域の方等ホームに関わる人たちにもホームの目指していることや思いを伝え理解してもらうためにも皆が見える場所に掲示してはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩時には必ず挨拶している。	自治会に加入しています。職員は清掃活動に参加し、利用者と共に地域の運動会や祭りに参加しています。日々の散歩では公民館に立ち寄り、声を掛けてもらうことも多くなりました。小学校や幼稚園の運動会に見学に行ったり、畑仕事を隣家の方に教わりボランティアの来訪もあり、少しずつホームが地域に根付いてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題として模策している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を頂ける会議だと認識しているそこでの意見をサービスの向上に繋げていける様努めている。	家族や市の担当者、地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員、オーナー等が参加する運営推進会議を2カ月に1回開催しています。家族会と一緒に開催されることもあり、多くの家族の参加があり、ホームから現状報告や今後の取り組み等を報告し、参加者から意見を頂いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係に努めている。	市の担当者は土曜日の運営推進会議にも関わらず出席があったり、ホームの行事にも参加してもらい積極的にホームの状況を伝えています。また、ホームの季刊誌を届けたり、何かあれば直接出向き相談やアドバイスを頂き何でも話し合える関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開放的な環境作りに努め ケアに努めている。	玄関やユニット入口の施錠について職員間で話し合っています。安全を考え時間帯によっては施錠する時もありますが、基本的には施錠していません。職員は見守りを怠らず利用者が外に出たり景色を見ながら自由な暮らしが出来るように支援しています。また、身体拘束については法人の研修を受講したりホームで勉強会を開催しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報共有に努め 実際に注意を払ってケアに取り組んでいる。		

ニチイのほほえみ 榎原醍醐 (なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加し支援出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後には利用者家族の要望を聞いて十分な説明を行い安心して利用して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度家族会議 運営推進会議を開催している。又密に家族様と連絡を取り希望を聞くように努めている。	家族の来訪時に話を聞いたり、2か月に1回の家族会や運営推進会議に多くの参加があり気軽に意見が言えるように心がけています。意見や要望などがあれば、会議で話し合いリーダーから直接改善策を伝えていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は億することなく意見や提案に付いては職員全体で検討し反映させている。	管理者も職員と一緒にケアすることで状況を把握し、職員を理解しながら話が聞けるように努めています。また、会議に参加するときには、必ず意見が言えるようにしています。今回の自己評価を行う際にも臨時で会議を開催し、職員から意見を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ働きやすい環境である事に心がけている。人的環境が一番で有ると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出来る限り取り入れている。働きながらのトレーニングはその時々に合わせて必要なこえかけを行う努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員のネットワーク作りやお互いの訪問までには至って居ない。他ホームの職員と交流できれば思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当者を決めて個々の関わりを持ち信頼関係を密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡や面会時に利用者さんの近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の気持ちやホームの自立支援のギャップはあるが情報を元に話し合い必要なケアを職員一同徹底行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの負担にならない範囲で日常生活の中で何か役割を持って頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事の参加を促し交流を図ってもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	畑の馴染みの有る方は畑の水遣りや草引きをしてもらう等個々に努めている。	昔の友達や近所の方がホームに訪ねに来てくれる事があります。懐かしい話に盛り上がり、手作りのはがきを作り年賀状のやり取りもしています。また、希望があれば家族の協力を得ながら馴染みの場所に行けるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様のパイプ役となり円滑な交流が持てるように努めている。		

ニチイのほほえみ 榎原醍醐 (なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で家族からの相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使いスタッフとカンファレスを行っている。	入居前に家族に解る範囲でセンター方式を記入してもらい、入居後も来訪時にはコミュニケーションを多く取りながら希望や意向の把握に努めています。また、今まで使っていたケアマネージャーやサービス事業者からも情報をもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみの物を居室において頂き生活歴や生活環境の把握に努め毎日の話題などの取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し全体で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレスをしている。家族も交えて行っている。	利用者や家族に希望や意向を基に一人ひとりに合わせたケアプランを立てています。3カ月ごとに日常生活支援シートを見直し、計画作成担当者はモニタリングと評価を行いカンファレンスを開催し、ケアプランを見直しています。カンファレンスにはできるだけ家族に参加してもらい、状況を説明したり意向が反映されるようにしています。また、必要があれば医師や訪問看護の意見を聞きながら取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言動も記録に残して問題があれば話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪看さんやほほえみ広場 他機関へ連携を取って幅広いニーズに応えている。		

ニチイのほほえみ 榎原醍醐 (なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動への参加や交流を持って行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と24時間対応で 直接家族に聞いて頂くよう往診日時を知らせている。	入居前、今までのかかりつけ医を継続できることや提携医に変更できることを説明しています。提携医の往診が月に1回あり24時間相談したり指示をもらえるように連携を持ち、往診時の記録や医師からの記録を残しています。また、月に2回、訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアやマッサージに来訪があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護日誌の情報提供 連絡ノートの記載で 家族 医療 介護が連携を取れるよう行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は 本人の状態を見ながら 病院側との情報交換をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人との話し合いは出来ていないが 家族及び医師と相談支援に努めて行きたい。	利用前、ホームでの看取りは出来ないと伝えていますが、その時の状況に応じて医師や訪問看護、家族が協力しながら出来るだけの支援はしていきたいと考えています。また、管理者やリーダーの思いを法人に伝え、今後に向け職員の思いが統一し終末期に向けたケアが出来るように考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置 応急手当の講習会や 初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練実施手順を職員全員で共有し 地域の消防活動にも参加予定。	年に2回夜間想定で避難訓練をしています。1回は消防署に立ち会ってもらい1回はホーム独自で避難訓練をしています。人形を使って誘導の方法や利用者も一緒にAEDの使い方の指導を受講しています。今後は、地域の消防活動に参加予定をしています。	ホームが住宅地の中にいることで、消防署の来訪時には地域の方にも声かけしホームの状況を知ってもらいながら一緒に避難訓練をされたり、運営推進会議で話題に取り上げながら地域との協力体制が築かれるように検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を敬称で呼び 常に傾聴で対応し 排泄に関しては特にプライバシーを損ねないよう言葉賭け対応する。	基本的には丁寧な言葉遣いが出来るように心がけています。今まで呼ばれていた呼び方やその時の状況に応じた言葉かけや呼び方を家族に了解を得て呼んでいます。馴れ馴れしくなった時や乱れた行動が見られた時にはその都度管理者は注意しています。	利用者と長く一緒に生活する中で馴れ馴れしくなりつい見逃してしまう事が多くなっていくこともあります。言葉遣いや接遇について振り返る機会や皆で話し合う機会を持たれてはいいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する事で 本人の思いをくみ 取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい 事や 身体状況見ながら取り組み支援出来るように 努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っている お洒落心を大切に その日の服装を選んで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から盛り付けまで利用者と職員が 一緒に行い後片付けもやって頂いている。	献立委員が利用者の希望を聞きながら献立を作成しています。買い物から準備、後片付けまで出来る事を一緒にしています。時には管理者やリーダーは同じ物を食べる事もあり、職員は同じテーブルに着き食事介助をしています。また、行事食や移動パン屋が来た時には職員もパンを購入し一緒におやつとして食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日1000以上取って頂く声かけと 咀嚼状態に応じた食事形態に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケア、昼のうがいは励行 月2回のデンタル訪問で口腔ケア マッサージを行なっている。		

ニチイのほほえみ 榎原醍醐 (なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して気持ち良く排泄出来る様支援している。	排泄表を利用しながら、利用者に応じた声かけや時間を見計らって誘導をしています。居室にポータブルを設置したり、布パンツにパッドを使用しながら出来るだけ紙パンツやおむつを使用しないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に工夫したり毎日の水分補給又ラジオ体操や日々の散歩など取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて朝から入浴して頂く事も有ります。又入浴剤も入れて気持ちよく入って頂くよう取り組んでいる。	朝から16時位まで毎日準備しています。その時の状況や入りたい気持ちを大切に入浴剤を使用しながら気持ちよく入れるように支援しています。また、拒否傾向のある利用者には、音楽をかけたりタイミングや声かけを工夫しながら入れるようにしています。また、家族の来訪時に協力も得て入ってもらうこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休憩したり休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生 薬局と連携を取りながら個人の薬ケース薬の説明書を利用し服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事 楽しめる事を見つけて楽しんで頂き日々の暮らしの中の役割を果たして頂いたり日々のレクレーションを楽しんだりしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族さんに協力して頂き来訪して頂いて一緒に食事に行ったりする機会を作り支援している。	日々散歩に出かけ、公民館にも立ち寄っています。ホーム入口や庭が広くおやつやお茶の時間をしています。また、季節の花見や外食などにも出かけています。今後、更に遠出の外出が出来るように家族の協力も得ながら支援していきたいと考えています。	

ニチイのほほえみ 榎原醍醐 (なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんのご協力の中で職員と一緒に散歩を兼ねてお買い物に出かける支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望に応じて電話連絡等して頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂、和室、居室の窓から外の景色がいつでも見る事が出来一日の流れや季節感を感じて頂く。	リビングは明るく窓から見える畑の様子を見たり外の景色を見る等好きな場所に椅子やテーブルセットを置き自由に過ごせるようにしています。壁には季節の切り絵や行事での写真を飾り、空調管理には気を付け利用者に応じた対応が出来るように心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの一部に椅子を置いたり和室でお友達と会話したり一人ででも気楽に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具を持参してもらいその人らしい生活空間作りを行なっている。	ベッドやテレビ、炬燵、加湿器等家族と相談しながら持ち込み、大切にしている家族の写真やぬいぐるみを飾り居心地良い居室となるよう配慮しています。また、民謡が好きな利用者はラジカセを持ち込んでもらい、利用者同士で居室で聞き楽しむ事もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守りする中それぞれの身体機能に 適した形で安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。		